

まことにびだせ!

東大阪 いっとこMAP



東大阪市
マスコットキャラクター
トライくん

①西堤神社・鱗殿

祭神は天照大神、豊受大神で西堤の氏神さまです。西堤では日照りが続くとき、ここに村人が集い水神社(鱗殿)の扉を開け雨乞の祈禱が行われたといわれています。村の北方に内助淵(新開池)に住んでいた大蛇を退治した様子が描かれています。新開池と関連性のある西堤神社鱗殿です。神社境内の池に祀られている水神社は、鱗殿とも呼ばれています。河内地方中央部は土地が低く、雨が降ると田畑に水がたまり、日照りが続くと干害に悩まされていました。農民たちは雨乞い祈願として水神様をたらいの中にお祀りし、その後ろに「内助淵大蛇退治の古図」をかけて、般若心経を唱えたそうです。鱗殿の伝説として、昔、長田から大東市諸福にかけて広がっていた新開池には大蛇がいると伝えられていました。長田のある家の男衆で内介という人が、ある晩、長く風呂に入っているので主人があやしんで見に行くと、大蛇の姿になって火を吹いていました。内介は自分の姿を見られたので、逃げて池に入りました。それでこの辺りを内介淵というようになりました。その後、この大蛇が水神様を飲もうとしましたが、飲み込めなかったので鱗を一枚残して去ったと伝えられています。

境内のくすは幹廻が5.29mある巨大なもので、市の保存樹木のひとつです。

②大通寺

融通念仏宗の寺院で西堤村の庄屋であった石津九左衛門が平野の本山大念仏寺に帰依し西堤の地に道場を設けて近隣の村々に布教しました。延宝5年(1677)に寺号を圓通山大通寺と改めたといわれています。寺宝として「内助淵大蛇退治の古図」が残されています。また、寺には、鎌倉時代末期の絹本着色阿弥陀三尊来迎図が残され、市内に残る貴重な仏画として昭和60年(1985)に市の文化財に指定されています。

発行 / 東大阪観光協会

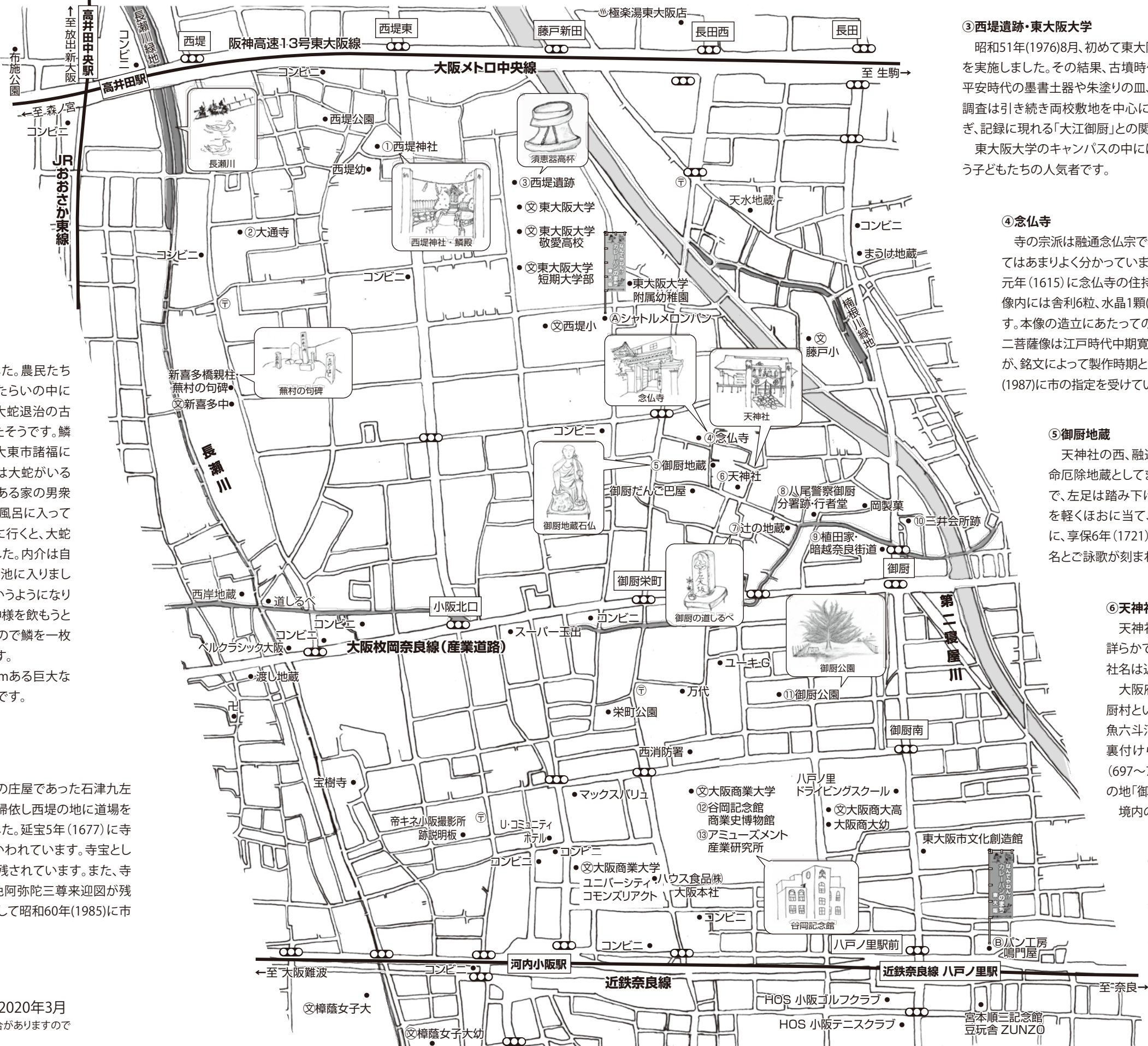
作成 / 2017年5月 更新 / 2020年3月

※施設等の情報は変更されている場合がありますのでご了承ください。

にしづつみ

みくりや

「西堤～御厨の古代から歴史の 移りかわりを見る」コース



西に旧大和川の本流であった長瀬川。北は現大東市まで広がっていた新開池、魚介類は平安時代、天皇家に献上されていました。東の楠根川は江戸時代の運河。低湿地帯で何も無いと思われるこの地には、古代から水に係わる歴史・伝説が多く残っています。大坂・奈良を最短で結ぶ暗越奈良街道は、江戸時代賑わっていました。現在は先端技術を持つ工場もあり、じっくり歩いたら多くの発見があります。

③西堤遺跡・東大阪大学

昭和51年(1976)8月、初めて東大阪高等学校(現・敬愛高等学校)の校舎増築工事に伴う調査を実施しました。その結果、古墳時代の後期初めの須恵器や土師器、獣骨類と、奈良時代から平安時代の墨書土器や朱塗りの皿、古銭(「承和昌宝」=836年に铸造)などが発見されました。調査は引き続き両校敷地を中心に行った結果、平安時代初め頃の特異な遺物の発見が相次ぎ、記録に現れる「大江御厨」との関連が注目されました。

東大阪大学のキャンパスの中には、鹿がいます。とてもかわいくて、こども研究センターに集う子どもたちの人気者です。

④念仏寺

寺の宗派は融通念仏宗で、平野にある大念仏寺の末寺にあたります。寺の由緒についてはあまりよく分かっていません。寺の本尊阿弥陀如来坐像は、江戸時代の初期の元和元年(1615)に念仏寺の住持であった證誉によって御厨村の本寺に迎えられたもので、像内には舍利6粒、水晶1顆(か)・浄土三部経・木造蓮華台などが胎内に納めされています。本像の造立にあたってのあつい念仏信仰の様を物語っています。脇侍の観音、勢至二菩薩像は江戸時代中期寛延3年(1750)に造り加えられました。三尊とも近世の作ですが、銘文によって製作時期とその背景を知ることができる貴重な文化財として、昭和62年(1987)に市の指定を受けています。

⑤御厨地蔵

天神社の西、融通念仏宗の寺である念仏寺の手前の新しい地蔵堂内に延命厄除地蔵としてまつられています。像はなめらかに彫磨かれた硬質砂岩製で、左足は踏み下げ、右足は組まずに岩座上に高く立てひざをして座り、右手を軽くほおに当て、左手に錫杖を持つ半跏思惟相をあらわしています。台石に、享保6年(1721)12月1日の年号の他、御厨融通念仏講や地蔵講の人々の戒名とて詠歌が刻まれ、石工西川五良兵衛の名もあります。

⑥天神社

天神社は大名持命、少彦命名の二神を祭神。当社の創建年代は詳らかではないが、別名は御厨子明神と呼ばれていました。現在の社名は近世に改称したものです。

大阪府全誌によればこの地(大字御厨)は古来若江郡に属し、江厨村といわれていました。延喜式の内膳司に「造雑魚鮓十石・味塩魚六斗河内国江厨所進」と書かれていて、御江厨はこの地であると裏付けられます。この村の言い伝えにありますと42代文武天皇(697～707)が吉野に行幸された時、この地から供膳されたのでこの地「御厨」を賜ったと伝えられています。

境内の樟(幹周6.01m)市の天然記念物に指定されています。

⑦辻の地蔵

御厨天神社の東側、奈良街道との出会う道角に、上部に石仏を彫った道標があります。東面には「左大坂」、南面には「右なら・いせ」、北面には「世話人(不明)寛永四(1792)壬子八月」と刻まれています。地元では「辻の地蔵さん」とも呼ばれています。

■ 東大阪市観光振興事業 ■